

# 調 査 速 報

## 日本海スケトウダラ資源調査結果 ——計量魚探——

北海道立総合研究機構中央水産試験場(0135-23-7451)・稚内水産試験場(0162-32-7177)

函館水産試験場(0138-57-5998)

ホームページアドレス

[http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kanri/NEWS/SUKESO/suke\\_gyotan.html](http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kanri/NEWS/SUKESO/suke_gyotan.html)

- ・ 全体の産卵群分布量は 2009 年の 1.3 倍と昨年に引き続き増加
- ・ 北部海域では 2009 年の 2.6 倍に増加
- ・ 石狩湾では大きく増加, 岩内湾では 2009 年度の 6 割程度に減少
- ・ 桧山海域は 1.2 倍に増加
- ・ 各海域とも尾又長 35~40cm の 2006 年級と思われる魚が主体

道総研水産試験場で実施したスケトウダラ計量魚探調査結果をお知らせします。

### 1. 調査海域と期間

- ・調査期間: 2010(平成22)年10月13日から10月22日
- ・調査海域: 水深200mより深い海域(図1)
- ・試験調査船: 北洋丸(計量魚探, 着底トロール)  
金星丸(計量魚探, 着底トロール)

### 2. 調査結果

#### 【魚群分布】

- ・海域全体の産卵群分布量は、2009年の1.3倍に増加した。
- ・積丹半島以北海域では、スケトウダラの分布は武蔵堆周辺海域で多く、産卵群分布量は2009年の2.3倍に増加した(図2, 4)。魚体サイズは武蔵堆周辺では尾又長35cm~40cm程度の2006年級と思われる魚が主体であった(図3)。
- ・石狩湾海域では、2009年の1.9倍に増加したが、岩内湾海域では2009年の6割程度に減少した。この海域でも尾又長35cm~40cm程度の魚が中心であった。
- ・桧山海域では本道沿岸域で少なく、概ね2008~09年と同じような分布状況であった。分布量は2009年よりやや増加して1.2倍であった。魚体サイズは他の海域より大きい魚の割合が高く、尾又長35~50cm程度の成魚が中心であった。分布深度のピークは、2008~09年よりやや深く390~400mであった(図5)。

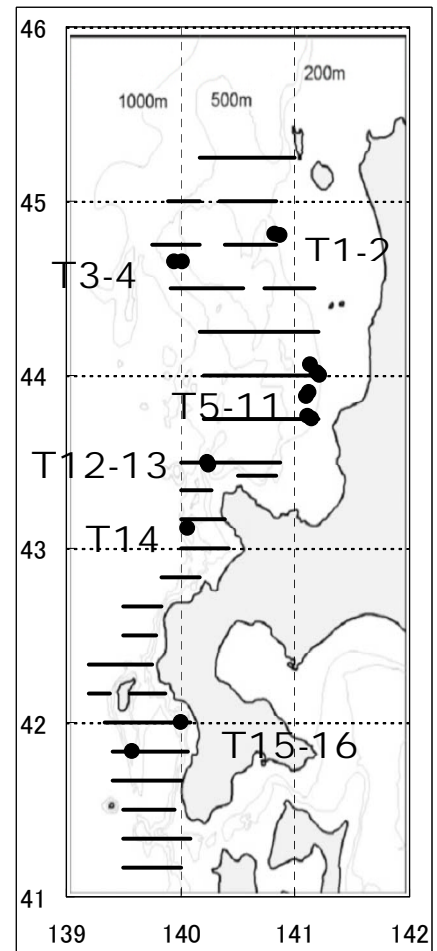


図1 調査海域

直線は魚探調査ライン

●(T1~T15)はトロール調査点。

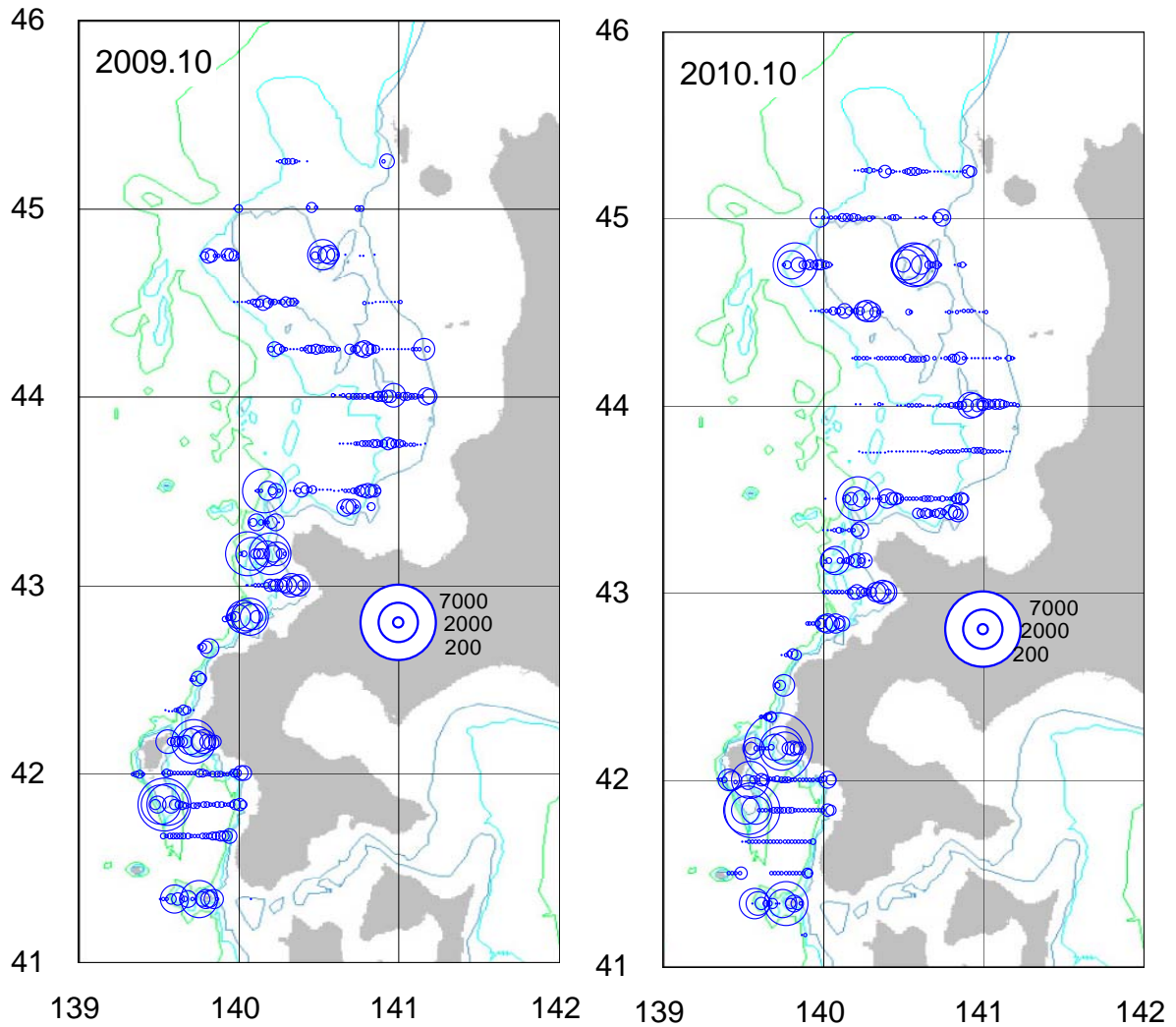


図2 スケトウダラ分布図(魚探反応量), 左:2009年, 右:2010年  
 円の大きさは, スケトウダラの反応の強さを示す。

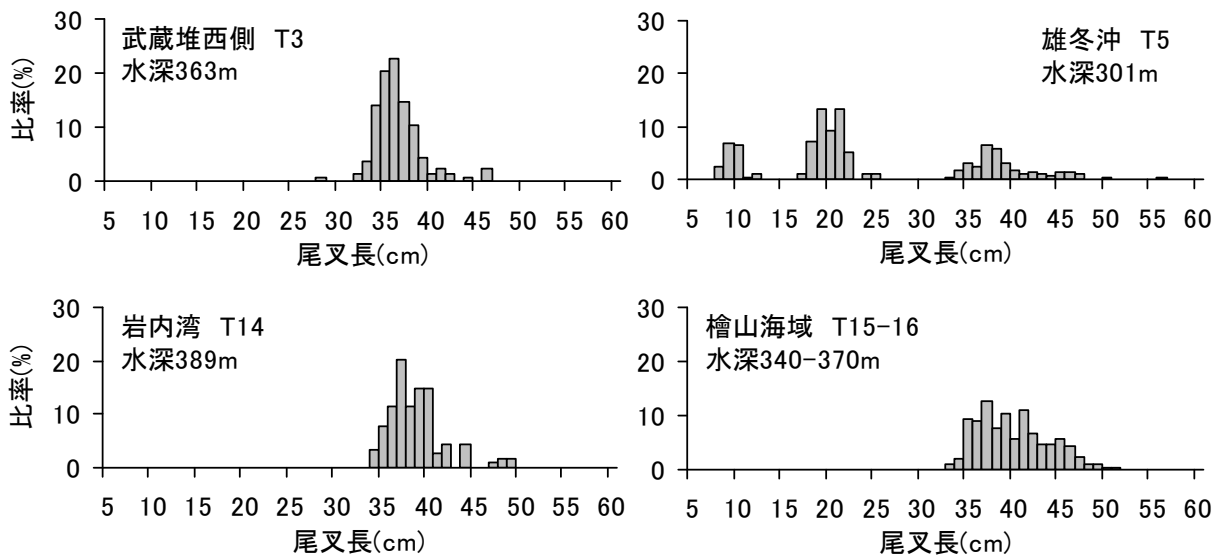
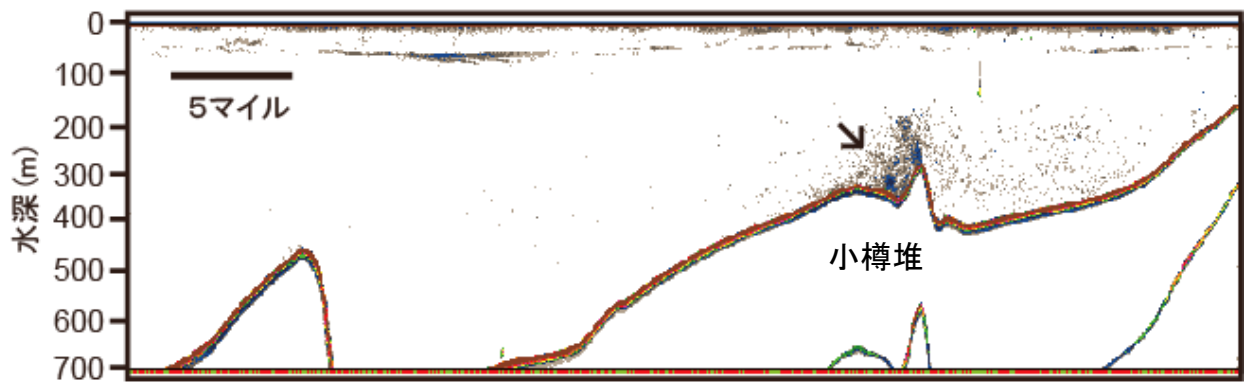
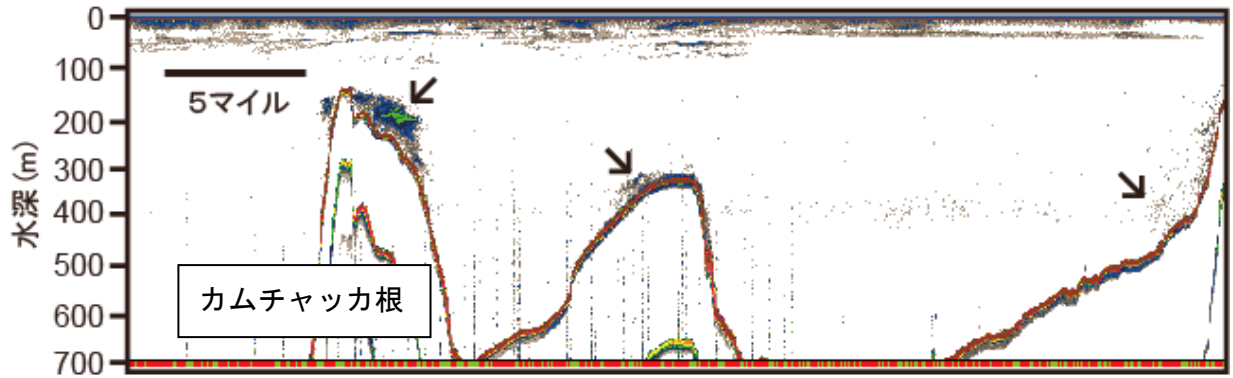


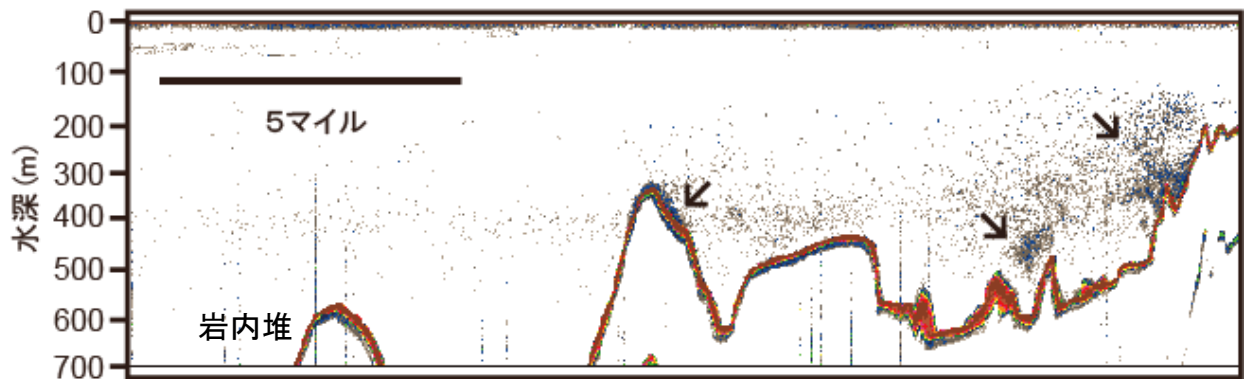
図3 トロール調査で採集されたスケトウダラの体長(尾叉長)  
 トロール地点は図1に示した。



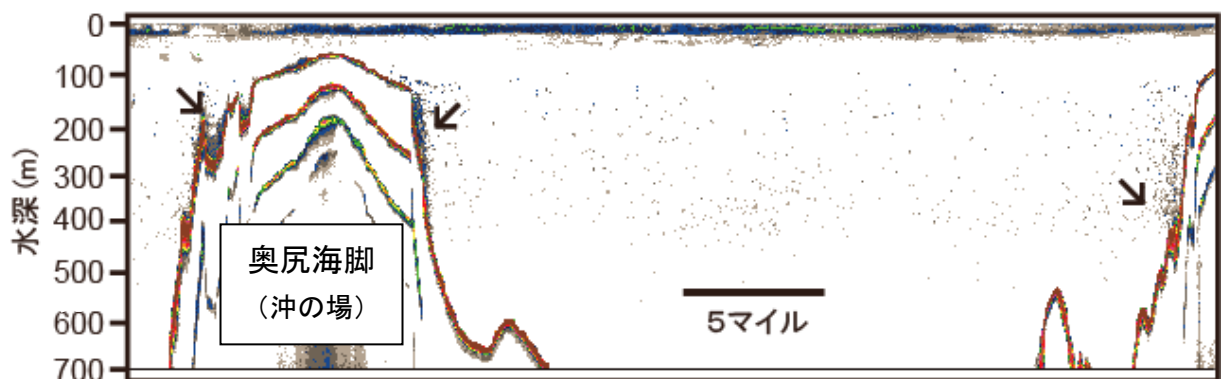
武蔵堆南部～小樽堆 北緯 44 度ライン(西→東)



石狩湾 北緯 43 度 30 分ライン(西→東)



岩内湾 北緯 43 度ライン(西→東)



檜山海域 北緯 42 度ライン(西→東)

図4 スケトウダラの魚探反応図  
矢印はスケトウダラと考えられる反応。

## 【水温環境】

100m層水温は、北部海域で高く、南部海域で低かった(図6)。岩内湾以北の海域は広く8℃以上の水に覆われており、昨年と比較してやや高かった。檜山沿岸では6~7℃となっていた。

### 3. 産卵群の来遊状況と漁況

調査海域全体の分布量は約9万トンと、2009年(約7万トン)の1.3倍に増加した(図7)。この増加は豊度の高い2006年級(4歳魚)によると考えられる。サイズも前年より一回り大きくなっており、海域によっては漁獲量が2009年より増加する可能性がある。

しかし、漁獲物調査などの結果からみて2006年級より後に豊度の高い年級がないと考えられるため、**「2006年級をじょうずに取り残して、次の産卵につなげることが大事です！」**

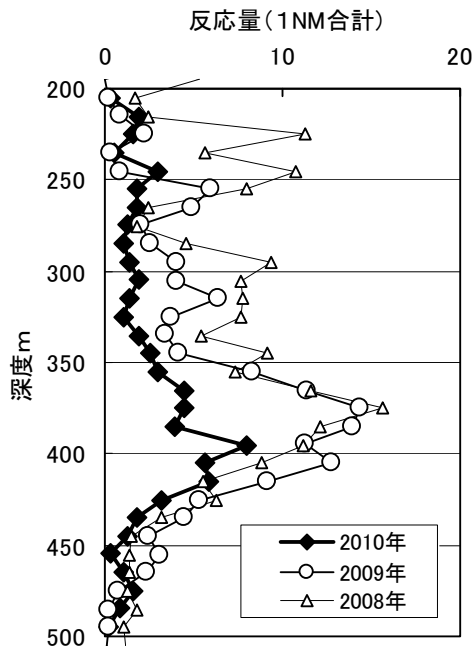


図5 檜山海域(乙部沖)におけるスケトウダラの分布深度

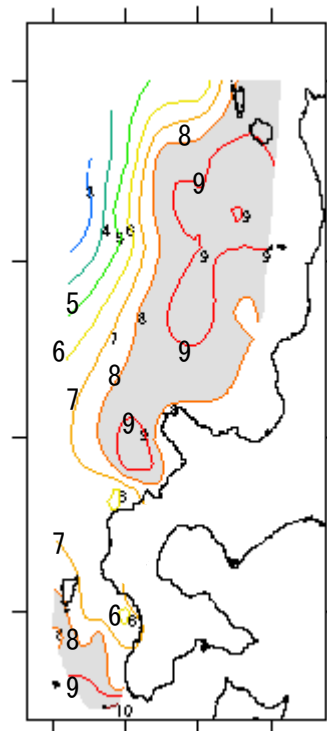


図6 道西日本海100m層水温分布図(数字は水温、塗りつぶした範囲は水温8℃以上)

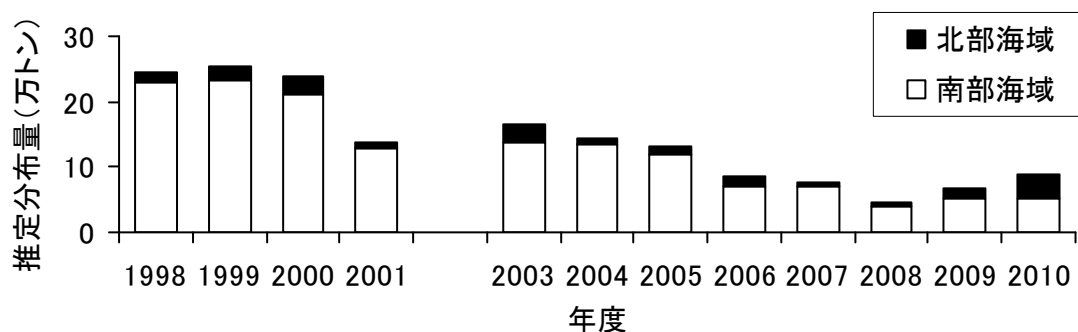


図7 スケトウダラ分布量(北部と南部海域の境界は北緯43度30分)